四国災害アーカイブス

アーカイブスあらかると

Vol.106～117（2021年4月～2022年3月）

一般社団法人　四国クリエイト協会

はじめに

四国災害アーカイブスは、過去に四国各地で発生した災害に関する情報を収集、整理し、地域防災力の向上のためにできるだけ多くの人々に活用してもらえるようインターネットを通じて情報を提供するものです。平成 24 年 7 月に部分的運用として地震・津波の情報提供を開始し、平成 25 年 7 月からは第二弾として土砂災害、渇水の情報を追加、平成 26 年 7 月よりすべての災害種類の情報を提供する本格的な運用を行っています。

「アーカイブスあらかると」は、皆さまに少しでも四国災害アーカイブスへの関心を持っていただくために、平成 24 年 7 月以来、毎月、四国災害アーカイブスのＷＥＢサイトに掲載してきたコラムです。この冊子には令和 2 年度分 Vol.106～117（2021 年 4 月～2022 年 3 月）のコラムを編集して収録しています。

この冊子が多くの人に活用され、四国災害アーカイブスが四国の地域防災力の向上に少しでも役立つことを願っています。

令和 4 年 4 月

一般社団法人　四国クリエイト協会
理事長　　木村　昌司

目　　次

Vol.106（2021 年 4 月）ため池の決壊・・・・・・・・・・・・・・・ 1

・茨谷池の決壊（香川県観音寺市）

・大谷池の決壊（香川県観音寺市）

Vol.107（2021 年 5 月）雨乞いのご利益・・・・・・・・・・・・ 5

・鷺森神社の雨乞い（愛媛県西条市）

・多伎神社の雨乞い（愛媛県今治市）

Vol.108（2021 年 6 月）洪水の標・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9

・明治 23 年の洪水標（高知県四万十市）

・大正元年洪水の標柱（徳島県吉野川市）

Vol.109（2021 年 7 月）水利紛争・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13

・大割泉の水利紛争（愛媛県東温市）

・札の辻水利紛争（香川県まんのう町）

Vol.110（2021 年 8 月）夏の台風・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17

・昭和 49 年 7 月の台風 8 号（香川県東かがわ市）

・昭和 50 年 8 月の台風 5 号（高知県仁淀川町）

Vol.111（2021 年 9 月）室戸台風・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21

・室戸市の室戸台風（高知県室戸市）

・由岐町の室戸台風（徳島県美波町）

■Vol.112（2021 年 10 月）宝永地震の津波・・・・・・・・・25
・中土佐町久礼の津波（高知県中土佐町）
・宿毛市大島の津波（高知県宿毛市）
■Vol.113（2021 年 11 月）安政南海地震の記録・・・・・29
・浅川の安政南海地震の記録（徳島県海陽町）
・東予の安政南海地震の記録（愛媛県西条市）
■Vol.114（2021 年 12 月）昭和南海地震による地盤沈下 33
・川内の地盤沈下（徳島県徳島市）
・禎瑞の地盤沈下（愛媛県西条市）
■Vol.115（2022 年 1 月）満濃池の決壊と修復・・・・・・37
・安政元年の決壊（香川県まんのう町）
・明治 3 年の修復（香川県まんのう町）
■Vol.116（2022 年 2 月）飢饉・・・・・・・・・・・・・・・・・・・41
・享保の飢饉（愛媛県松山市）
・天保の飢饉（徳島県徳島市）
■Vol.117（2022 年 3 月）津波を忘れない・・・・・・・・・・45
・牟岐町南海震災記念碑（徳島県牟岐町）
・加茂神社の南海大地震の碑（高知県黒潮町）

■四国災害アーカイブスの概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 49

ため池の決壊

降水量が少なく大きな河川がない香川県では、古くからたくさんのため池がつくられてきました。築造以来、修繕や改築が行われてきましたが、豪雨や地震により決壊することがありました。西讃地域の 2 つのため池の決壊事例をご紹介します。

■茨谷池の決壊（香川県観音寺市）

大正 10 年（1921）6 月、連日雨が降り、和田村（現観音寺市）の各溜池は満水状態になっていました。寛永 8 年（1631）築造の茨谷池（ばらたにいけ）も堤防の地盤がゆるみ、池係りの人や村民が警戒していましたが、一瞬の間に堤防の外側が崩れ、間もなく堤防が決壊し、白坂川一帯が洪水となりました。このため、長谷集落の民家およそ 8 戸が全壊または流失し、半壊、一部破損も数軒ありました。また、長谷、道溝などの良田約 5 町歩が流失、荒廃しました。豊浜町と和田村の境界付近は予讃線の道床が高く築かれていたため、これで大水は防止され、豊浜町は川端・東町の一部に浸水があった程度で大難を免れました。復旧工事完成後に、茨谷池は鶴亀池と改められました。＜豊浜町誌編集委員会編「豊浜町誌」1974 年、讃岐のため池誌編さん委員会編「讃岐のため池誌」2000 年＞

鶴亀池
copyright©2013 四国災害アーカイブス

鶴亀池
白坂川
（地理院地図に加筆）

Vol.106（2021 年 4 月）ため池の決壊②

■大谷池の決壊（香川県観音寺市）

昭和 21 年（1946）5 月 9 日、大野原町（現観音寺市）の大谷池の堤防が決壊しました。文明 2 年（1470）に築造された大谷池は、午前 5 時 30 分頃、副堤の一部から漏水し始め、午前 8 時に決壊、8 時 30 分頃にはすべての池水が流失しました。荒れ狂う濁流は、堤防直下の上池、豊池に流れ込んでこれを決壊させ、西丸井、福田、丸井南の 3 集落を襲い、粟井村向本庄付近で柞田川の堤防を破壊して柞田村から観音寺町を浸水させました。これにより死者 6 人、田流失 50 町歩、家屋流失 55 棟、罹災者 800 余名という被害が出ました。この悲惨な水害を記念して 17 年目の昭和 37 年 5 月 9 日に、流れてきた石の一つを用いて頂懸神社の参道前に大谷池水害記念碑が建立されました。＜新修大野原町誌編さん委員会編「新修大野原町誌」2005 年、紀伊村誌編集委員会編「紀伊村誌」1972 年＞

大谷池
copyright©2013四国災害アーカイブス

大谷池水害記念碑

柞田川
大谷池水害記念碑
大谷池
（地理院地図に加筆）

雨乞いのご利益

瀬戸内海の沿岸地域は降雨が少なく、干ばつが続くと水不足が深刻になります。かつては神仏に降雨を祈願する雨乞いが各地で行われました。自然相手ですので効き目がある時もない時もありましたが、他に頼るすべがありませんでした。以下では、愛媛県西条市の鷺森神社と今治市の多伎神社の雨乞いの例をご紹介します。

■鷺森神社の雨乞い（愛媛県西条市）

天和 3 年（1683）、壬生川村（現西条市）辺りでは日照りが続き、川も池も干し上がり、池底には亀裂ができる状態でした。田植えはおろか苗代の養い水にも事欠き、村の鎮守の神様には雨乞いの人が絶えなかったといいます。記録によると、5 月 1 日、代官は桑村郡内各村の代表者を鷺森（さぎのもり）神社に集め、神官に雨乞いの祈祷を行わせました。祈祷は 3 日 3 夜続けられましたが、満願の日も強い日照りで雲ひとつありませんでした。しかし、それから 3 日後の 6 日早朝寅の刻（午前 4 時）から翌 7 日寅の刻まで雨が降り、おかげで心配していた田植えも終えることができたため、鷺森神社はお礼参りの人たちで賑わったそうです。＜壬生川郷土史研究委員会編「壬生川郷土史」2009 年＞

鷺森神社
copyright 2013 四国災害アーカイブス

西条市
鷺森神社
（地理院地図に加筆）

Vol. 107（2021 年 5 月）雨乞いのご利益②

■多伎神社の雨乞い（愛媛県今治市）

朝倉村（現今治市）の多伎（たき）神社は今治藩の雨乞い祈願所として知られています。記録の残る江戸時代後期だけでも、文政 6 年（1823）6 月、天保 2 年（1831）6 月、嘉永 5 年（1852）6 月、嘉永 6 年 7 月～8 月に大雨乞いが行われています。嘉永 5 年（1852）の記録によると、5 月 12 日より大干ばつとなり、御用所より多伎神社に雨乞い五穀成就の祈祷が仰せ付けられ祈祷を始めたところ、初日に俄に曇天となり瑞雨（穀物の生長を助ける雨）があり、また中日にも瑞雨があって、その夜から翌朝まで大雨が降り続き、蒼社川にもたくさん水が出て朝より夕方まで渡しも止まるほどとなり、万人が悦んだと効験の様子が記されています。＜愛媛県土地改良事業団体連合会編「愛媛の土地改良史」1986 年＞

多伎神社
copyright©2013 防災アーカイブス

●←多伎神社
（地理院地図に加筆）

洪水の標

洪水の水位を示す標（しるし）が各地に残されています。それを見ると、先人がどれだけ洪水に苦しめられてきたか、洪水を安全に流すためにどれだけ努力してきたかを知るきっかけになります。高知県四万十市と徳島県吉野川市の洪水の標についてご紹介します。

■明治 23 年の洪水標（高知県四万十市）

明治 23 年（1890）9 月 9 日午後 3 時頃から降雨が始まり、11 日には豪雨となりました。四万十川、後川の水量は増加し、中村町（現四万十市）では低地はもちろん上町、本町辺りも瞬く間に浸水しました。階上、高所に揚げた家財道具も浸水し、人々は堂社に逃れ、墓地山間に露宿するなどしました。避難途中に船が転覆して 9 人が死亡する事故も起こりました。中村町の被害は田損地 86 町余、畑損地 70 町余、変死人 13 人、本家流失 45 戸、全倒 13 戸、半倒 13 戸、大破 279 戸などに及びました。この洪水は後に渡川改修工事の計画対象洪水となりました。上流の西土佐村（現四万十市）口屋内の鵤（はいたか）神社の石段に、明治 23 年の洪水標が建てられています。石段の下から 42 段目にあたります。＜西土佐村史編纂委員会編「西土佐村史」1970 年、中村町編「中村町風水害史」1938 年、中村町役場編「中村町史」1950 年）＞

鵲神社の石段

明治 23 年の洪水標

（地理院地図に加筆）

Vol. 108（2021 年 6 月）洪水の標②

■大正元年洪水の標柱（徳島県吉野川市）

大正元年（1912）9 月 22 日夜半前に台風が徳島県南の海岸をかすめて、阪神地区に上陸しました。吉野川は大水害となり、海岸は高潮に見舞われました。徳島平野は見渡す限り一面泥の海と化し、三日三晩屋根の上で水の退くのを待っていた人の話も伝わっています。県全体の被害は死者 81 人、負傷者 53 人、行方不明 14 人、住宅の全壊 426 戸、半壊 796 戸、床上浸水 26,708 戸、床下浸水 16,359 戸などに及びました。吉野川第一期改修工事（明治 40 年～昭和 2 年）の完成を記念する吉野川市の改修碑の横には、大正元年の洪水の痕跡を示す標柱が立っています。標柱の側面に「八尺七寸」と刻まれており、この辺りで約 2.6m 浸水したことを伝えています。＜建設省四国地方建設局徳島工事事務所編「吉野川百年史」1993 年、徳島地方気象台編「徳島県自然災害誌」1997 年など＞

大正元年洪水の標柱（左）
と吉野川改修碑（右）

大正元年洪水の標柱
（側面に八尺七寸と刻字）

（地理院地図に加筆）

水利紛争

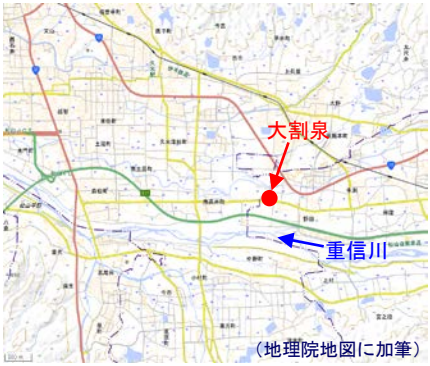
水利紛争は、干ばつ時に対立する地域が旧来の水利慣行や約束を自分の都合の良いように解釈したり、無視したりすることなどから起こりました。愛媛県東温市の大割泉と香川県まんのう町の札の辻堰の例についてご紹介します。

■大割泉の水利紛争（愛媛県東温市）

昭和 9 年（1934）は 60 年来の大干ばつとなり、村境附近にある大割泉をめぐって南吉井村北野田と浮穴村高井の間で水利紛争が起こりました。高井側が北野田側に対して水不足を補うために大割泉に枠を入れて取水することを申し込んだものの、北野田側の同意がないため、8 月 10 日に枠入れを強行したため、20 日午前 2 時頃、北野田の農民約 80 人が押しかけ、大割泉を守っていた高井の農民 3 人を袋だたきにして重傷を負わせました。急報を受けて松山署から十数名の警官が出動して、騒ぎを鎮めました。裁判で争うこと 6 年に及びましたが、昭和 14 年に南吉井村長が浮穴村長に調停の申し入れを行い、双方和解に同意し、円満解決をみるに至りました。＜重信町誌編纂委員会編「重信町誌」1975 年＞

大割泉

大割泉


大割泉
重信川
（地理院地図に加筆）

Vol. 109（2021 年 7 月）水利紛争②

■札の辻水利紛争（香川県まんのう町）

昭和 30 年（1955）8 月の干ばつに際して、打越池への取り入れ口である札の辻堰で、水利紛争が起こりました。ここでは、土器川右岸から川の中央部まで札の辻堰が築かれ、流水は右岸に流入させ、伏流水は左岸で取水する慣行がありました。ところが土器川の本流が近年しだいに左岸寄りに流れるようになったことを理由に、右岸の岡田側が従来の慣行を無視して堰堤を左岸の堤防まで延長したのに対し、左岸の吉野側が札の辻堰を壊そうとしたため、両岸側の約 600 人の農民が対峙する事態となりました。香川県警が数百人の警官を動員するなどして警戒し、紛争の拡大を防ぎました。結局、昭和 33 年 2 月に右岸側 75%、左岸側 25%の割合で分水することなどを定めた大川頭首工に関する協定が成立して、翌 34 年 8 月に大川頭首工が竣工しました。＜満濃町誌編さん委員会編「新修満濃町誌」2005 年、讃岐のため池誌編さん委員会編「讃岐のため池誌」2000 年＞

大川頭首工

堰川大

打越池
大川頭首工
まんのう町
亀越池
土器川
（地理院地図に加筆）

夏の台風

夏は太平洋高気圧が張り出し、偏西風が北上しているため、夏の台風は秋の台風に比べて、動きが遅く、複雑な進路をとるという特徴があります。このため、記録的な集中豪雨になることがあり、昭和 49 年の台風 8 号と昭和 50 年の台風 5 号では四国各地に被害をもたらしました。香川県東かがわ市と高知県仁淀川町の例をご紹介します。

■昭和 49 年 7 月の台風 8 号（香川県東かがわ市）

昭和 49 年（1974）7 月 6 日、台風 8 号による集中豪雨のため、白鳥町（現東かがわ市）与田山では、午前 9 時からの 16 時間の総雨量 375 ミリ、最大 1 時間雨量 65 ミリを記録しました。各地で山崩れ、河川の氾濫、堤防の決壊などが起こり、白鳥町の被害は建物半壊 1 棟、一部損壊 2 棟、床上浸水 382 戸、床下浸水 1,977 戸、道路損壊 14 箇所、橋梁流失 1 箇所、河川堤防決壊 52 箇所などに及びました。田ノ口池でも堤防の下流側面全域に崩壊が生じ、特に西約 30ｍの間は決潰に瀕したため、23 時に避難命令が発令され、田高田地区民は白鳥中学校に避難しました。昭和 49 年から昭和 50 年にかけて田ノ口池の災害復旧工事が実施され、堤防に災害復旧記念碑が建立されています。＜白鳥町史編集委員会編「白鳥町史」1985 年及び田ノ口池の災害復旧記念碑＞

田ノ口池

田ノ口池の災害復旧記念碑

（地理院地図に加筆）

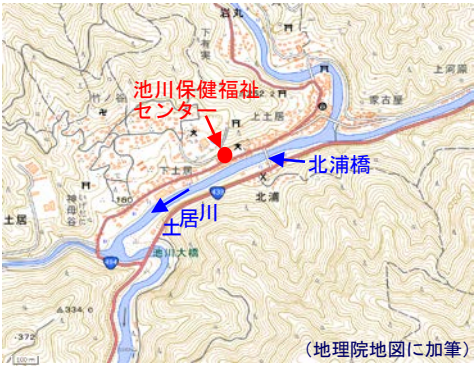
Vol. 110（2021 年 8 月）夏の台風②

■昭和 50 年 8 月の台風 5 号（高知県仁淀川町）

昭和 50 年（1975）8 月 17 日 8 時 50 分頃、台風 5 号が高知県西端の宿毛市付近に上陸しました。この台風は東側に雨域が集中し、県中部の仁淀川上流で激しい雨が数時間続き、記録的な集中豪雨となりました。最大 1 時間雨量は佐川で 108 ミリ、池川で 74 ミリに達しました。県中部では山崩れ、土石流が相次ぎ、河川は氾濫して大洪水となりました。池川町（現仁淀川町）では、増水のため家が流されて死者 1 人、行方不明 1 人、重軽傷 9 人のほか、家屋の全壊 38 戸、半壊 29 戸、一部破損 30 戸、床上浸水 96 戸、床下浸水 67 戸などの被害が出ました。池川保健福祉センター前にある台風五号記録碑には、当時の最高水位点が示されています。測ると、最高水位点は地面から約 135cm でした。＜高知県編「昭和 50 年台風第 5 号第 6 号の災害記録」1976 年、岡田明治「仁淀川誌」1979 年など＞

池川保健福祉センター前
の台風五号記録碑

北浦橋から土居川下流方向をのぞむ



室戸台風

室戸台風が襲来する前日の午後 5 時頃、室戸岬測候所は暴風雨警報を出していました。しかし、その時室戸付近は静かな天候でしたし、当時は情報伝達手段が発達しておらず、測候所の警報は人々に十分には伝わりませんでした。室戸台風による暴風や高潮は各地に大きな被害をもたらしました。高知県室戸市と徳島県美波町の状況をお伝えします。

■室戸市の室戸台風（高知県室戸市）

昭和 9 年（1934）9 月 21 日午前 5 時、室戸台風が奈半利町に上陸し、北東に進みました。室戸岬測候所の記録によると、午前 5 時 10 分頃、気圧は 684 水銀柱ﾐﾘﾒｰﾄﾙ（911.6 ﾍｸﾄﾊﾟｽｶﾙ）、瞬間風速は 60m以上となりました。暴風に加えて、高潮が被害を大きくしました。波の高さは室戸付近で 12～13mに達しました。室戸市の旧町村別の被害は、室戸町で死者・行方不明 14 人、流失全壊住家 239 戸、室戸岬町で死者 63 人、流失全壊住家 550 戸、吉良川町で死者・行方不明 4 人、倒壊住家 180 戸、羽根村で死者 18 人、全壊住家 103 戸、佐喜浜村で負傷者 20 人などに及びました。津呂王子宮など室戸岬町の旧国道沿いの各地には高潮が襲来したことを示す「昭和九年海嘯襲来地点」の碑が建立されています。＜室戸市史編集委員会編「室戸市史上巻」1989 年、土佐史談会編「土佐史談第 224 号」2003 年など＞

昭和九年海嘯襲来地点碑
（津呂王子宮）

（地理院地図に加筆）

Vol. 111（2021 年 9 月）室戸台風②

■由岐町の室戸台風（徳島県美波町）

昭和 9 年（1934）9 月 21 日、室戸台風が海部郡沿岸を北上し、午前 5 時過ぎに由岐町（現美波町）に襲来しました。最大風速 60ｍの暴風雨に雨戸が弓なりに曲がり、家族が必死に畳で押さえつけていたという記録も残っています。由岐町では台風に伴い高潮が押し寄せ、数十分後には家屋の倒壊 156 戸、流失 13 戸、船舶の流出破損 348 艘などの被害が出ました。由岐小学校の校舎が講堂を残して倒壊し、志和岐小学校、東由岐の青年会館も押しつぶされました。東由岐公民館前には、、昭和 10 年に建立された青年会館再建記念碑があります。再建記念碑には室戸台風の様子、被害の状況、記念碑建立の経緯などが記されています。＜由岐町史編纂委員会編「由岐町史上巻、下巻」1985 年及び 1994 年、青年会館再建記念碑の碑文など＞

東由岐の青年会館再建記念碑

（地理院地図に加筆）

宝永地震の津波

宝永地震は、宝永 4 年 10 月 4 日（1707 年 10 月 28 日）に遠州灘沖から四国沖を震源域として発生した巨大地震で、記録に残る日本最大級の地震とされています。土佐では津波により大きな被害を受けました。高知県の中土佐町と宿毛市の様子をお伝えします。

■中土佐町久礼の津波（高知県中土佐町）

宝永 4 年（1707）10 月 4 日未上刻（午後 2 時頃）、大地震が起こり、未下刻（午後 3 時頃）より津波が押し寄せ、久礼は甚大な被害に見舞われました。津波は、南は大坂谷まで、西は常賢寺まで、北は焼坂のふもとまで襲い、町中の 3 分の 2 が海中に没したと伝えられています。家屋も大半が流失し、死者も 200 人前後に達しました。久礼八幡宮も柱一本残らず、すべて流失しました。「久礼村根居帳」には、宝永地震までは久礼の町には市が立ち、郷と浦の人が入り交じって生活していましたが、宝永地震後には浦分は人の住める状況ではなくなったため、郷分へ移住するようになったことが記されています。また、久礼熊野神社の震災碑にも宝永地震の津波のことが刻まれています。＜中土佐町史編さん委員会編「中土佐町の歴史」1986 年、中土佐町史編さん委員会編「中土佐町誌」2013 年）など＞

八幡宮
久礼八幡宮
copyright©2013 四国災害アーカイブス

久礼熊野神社の震災碑

中土佐町
久礼八幡宮
久礼熊野神社
（地理院地図に加筆）

Vol.112（2021 年 10 月）宝永地震の津波②

■宿毛市大島の津波（高知県宿毛市）

宿毛市大島の震災状況は、大島の庄屋の「小野家家譜」に次のように記されています。「宝永四亥年十月四日、大ニ地、震動シ、山穿テ水ヲ漲シ、川埋リテ丘ト成、浦中ノ漁屋悉ク転倒ス。逃レントスレ共、眩暉テ壓ニ打レ、或ハ頓絶セントスル者若干ナリ。係リシ後ハ、高潮入リナルヨシツブヤク所ニ、大津浪打テ島中ノ在家一所トシテ残ル方ナシ。昼夜十一度打来ル。中ニモ第三番ノ津浪高クテ、当浦鵜社ノ石垣踏段三ッ残。」地震の後、津波が 11 回襲来して島中の家はすべて流され、3 番目の津波は鵜（はいたか）神社の石段 3 つ残す地点まで到達したとのことです。鵜神社の当時の石段は 42 段でしたので、39 段まで水に没したことになります。石段の下から 39 段目に津波碑が建立されています。＜宿毛市史編纂委員会編「宿毛市史」1977 年、宿毛市教育委員会編「河戸堰」1996 年）など＞

鶚神社の石段

石段下から 39 段目の津波碑

安政南海地震の記録

安政元年 11 月 5 日（1854 年 12 月 24 日）に大地震が起こり、四国各地で甚大な被害が発生しました。先人が残した記録には、地震や津波時の人々の様子、被害の状況などが記されています。徳島県海陽町と愛媛県西条市の例をお伝えします。

■浅川の安政南海地震の記録（徳島県海陽町）

海陽町浅川の千光寺の扁額「大地震津浪記」には、安政南海地震の様子が記されています。大地震津浪記は、多くの人が目にしやすいように御崎神社の石碑にも刻まれています。これによると、11 月 5 日申刻（午後 4 時頃）より未曾有の大地震が起こり、その後津波が襲来して、天満宮、大歳神社、御崎神社などの寺社を残して浦村の人家土蔵は残らず流失したそうです。津波の高さは 2～3 丈（6～9m）余で、浅川の観音堂石段 25 段まで到達したと記録されています。観音堂の石段には、安政南海地震から 84 年後の昭和 13 年（1938）に「安政南海地震津波襲来地点石標」が建立されました。標高約 6mの位置にあります。＜猪井達雄、澤田健吉、村上仁士「徳島の地震津波－歴史資料から－」1982 年、浅川観音堂石段の標識など＞

御崎神社の大地震津浪記

観音堂石段の安政南海
地震津波襲来地点石標

津波は観音堂石段の
25 段目まで到達（矢印）

Vol. 113（2021 年 11 月）安政南海地震の記録②

■東予の安政南海地震の記録（愛媛県西条市）

11 月 5 日申刻に起こった安政南海地震により、大新田村（現西条市）では海岸堤防が決潰し、人家が倒壊しました。海岸堤防の復旧工事は、古田村、壬生川村、大新田村の庄屋らが中心となって、積み石は今治藩領比岐島から取り寄せ、12 月から 1 年余をかけて修復しました。総工費は玄米 550 俵分で、これは大新田村の年貢の約 4 年分に相当したといいます。また、小松町（現西条市）高鴨神社の神主鴨重忠の「御神用並公私向之日記」には、11 月 5 日七ッ時（午後 4 時頃）大地震が起こり、夜も 5 度地震があり、小松町の恵比須宮の鳥居が倒れ、玉之江村南春宮の鳥居もなびき、その後も余震が約 3 ヶ月間続いたことなどが記されています。＜壬生川郷土史研究委員会編「壬生川郷土史」2009 年、小松町誌編さん委員会編「小松町誌」1992 年など＞

（地理院地図に加筆）

昭和南海地震による地盤沈下

昭和 21 年（1946）12 月 21 日に発生した南海地震により、高知県の室戸岬では隆起が、その他四国の多くの地域では地盤沈下が起こりました。その後、海岸部の水田に海水が浸入したり、井戸水に塩水が混入したり、排水が逆流して湛水したり、高潮被害が頻発するなどの影響が続きました。徳島県徳島市と愛媛県西条市の例をご紹介します。

■川内の地盤沈下（徳島県徳島市）

昭和南海地震により発生した地盤沈下は、地震後徐々に進行し、徳島県では昭和 24 年頃まで続きました。川内村（現徳島市）では地盤沈下が約 60cm に達しました。昭和 23 年頃から高潮による被害が発生し、放棄田は 85 町歩に及びました。村では村内水利組合の統一を図り排水機 3 箇所を新設しましたが、塩害の根本的救済には至りませんでした。このため、川内村と川内農協は復旧のため客土事業を計画し、昭和 25 年に着工、昭和 28 年に 238 町歩に平均 20cm の客土が完成しました。徳島市川内支所前に農地復旧記念碑が建立されています。＜徳島県史編さん委員会編「徳島県災異誌」1962 年、川内土地改良区史編さん委員会編「目で見る川内の変遷」1995 年、川内の農地復旧記念碑の碑文など＞

川内の農地復旧記念碑

川内の農地復旧記念碑
吉野川
（地理院地図に加筆）

Vol.114（2021 年 12 月）昭和南海地震による地盤沈下②

■禎瑞の地盤沈下（愛媛県西条市）

昭和南海地震による地盤沈下のため、西条市では中山川と加茂川にはさまれた難波、禎瑞地域の海岸線及び耕地で大きな被害を受けました。昭和 25 年 9 月のキジア台風時の高潮などにより、西条市の被害は崩壊家屋 248 戸、床下浸水 36 戸、農耕地被害 821 町歩などに及びました。このうち禎瑞地区について、嘉母神社の客土記念碑には次のように記されています。南海地震により平均 60cm の地盤沈下が起こり、禎瑞 192 町歩をはじめ周辺の地を含めて 285 町歩で排水不良となりました。排水機 2 機を設置して排水に努めたものの効果が十分でないため、農民から客土事業の要望が起こり、客土事業が昭和 28 年に着手され、昭和 33 年にいったん竣工しました。しかし、工事はさらに続けられ、最終的に事業が完了したのは昭和 45 年でした。＜四国地方経済復興開発委員会地盤変動調査専門委員会編「四国地方地盤変動調査報告書第九集」1951 年、嘉母神社の客土記念碑など＞

嘉母神社の客土記念碑

（地理院地図に加筆）

Vol. 115（2022 年 1 月）満濃池の決壊と修復①

満濃池の決壊と修復

香川県まんのう町の満濃池は日本一のため池です。池の周りは約 20km、貯水量は 1,540 万トンを誇り、2016 年には世界かんがい施設遺産に登録されています。満濃池では、大宝年間（701～704 年）の創築以来、何度も決壊や修復が繰り返されてきました。今回は幕末から明治初頭にかけての満濃池の決壊と修復についてご紹介します。

■安政元年の決壊（香川県まんのう町）

安政元年（1854）6 月 14 日、讃岐地方を強い地震が襲いました。この地震で堤防の地盤が緩んだためか、前年に完成した木製の樋から石の樋への普請工事のためか、7 月 5 日午後 2 時頃、樋外の石垣から水が漏れているのを池守が発見しました。翌日から水漏れを防ぐための対策が講じられ、9 日には高松・丸亀両藩から人夫 400 人を出して 300 俵の土俵を孔口に投入しましたが効果がなく、ついに決壊に至りました。数日続いた漏水で池の水が減少していたので、人畜への被害は少なかったものの、肥沃だった耕地は一瞬にして河原となりました。この後、満濃池はしばらく廃池となりました。＜讃岐のため池誌編さん委員会編「讃岐のため池誌」2000 年、香川県仲多度郡編「仲多度郡史」1918 年など＞

満濃池
copyright©2013四国災害アーカイブス

松坂長谷川翁功徳之碑、
世界かんがい施設遺産碑
満濃池
（地理院地図に加筆）

Vol. 115（2022 年 1 月）満濃池の決壊と修復②

■明治 3 年の修復（香川県まんのう町）

満濃池の堤防が決壊して以来、天領の榎井・五条・苗田の三村（現琴平町）では用水の手当がなく、植え付けに困窮していました。榎井村百姓総代の長谷川佐太郎が、慶応 4 年（1868）政府に満濃池再築の嘆願書を提出したところ、政府より許しを受けた倉敷県が高松藩、丸亀藩、多度津藩の三藩に対して満濃池改築を働きかけることになりました。しかし、三藩の意見は一致しませんでした。佐太郎が私財を投じて各藩の間を斡旋、奔走した結果、明治 2 年 9 月に石穴掘削の工事に着手することができました。工事は高松藩執政・松崎渋右衛門の意見により堤防西隅の岩盤に穴をうがって底ゆるにすることとし、石穴の掘削には軒原庄蔵を起用して明治 3 年（1870）3 月に石穴が貫通、6 月に築堤が完成しました。満濃池は破堤から 16 年目に甦りました。＜満濃池土地改良区「満濃池史」2001 年、香川県教育会編「さぬき・人・ここにあり」2013 年など＞

満濃池

松坡長谷川翁功徳之碑

世界かんがい施設遺産碑

飢饉

江戸時代には長雨、水害、日照り、虫害などで凶作となり、たびたび飢饉が起こりました。このうち享保・天明・天保の飢饉が三大飢饉と呼ばれています。今回は松山市の享保の飢饉と徳島市の天保の飢饉を取り上げます。

■享保の飢饉（愛媛県松山市）

享保 17 年（1732）、松山地方では 5 月 20 日頃から天候が不順となり霖雨が続きました。降り続いた雨のため、海岸部の水はけのあまり良くない地域では麦が凶作となり、7 月中旬には稲も腐敗するものが出て、さらにウンカが発生して稲だけでなく雑草まで食い尽すに至りました。このため、町方、農村とも人々は飢えに苦しみました。松山藩では 5,700 人余りが餓死し、堀江村（現松山市）では村人 800 人余りのうち半数以上が餓死しました。松山市堀江町の光明寺前には供養塔と追遠之碑（享保飢饉餓死者 150 回忌碑）が建立されています。藩が堀江の港に救援物資を運ぶというので、人々は争って港に集まりましたが、船が着くのを待ちかねて飢え死にする人も多かったそうです。
＜愛媛県史編さん委員会編「愛媛県史近世上」1986 年、松山市史編集委員会編「松山市史第２巻」1993 年＞

光明寺前の供養塔

追遠之碑

Vol. 116（2022 年 2 月）飢饉②

■天保の飢饉（徳島県徳島市）

天保 8 年 (1837)、長雨が続き、農作物の被害が甚大で、県南地方では 50 年来の洪水となりました。県下一般に餓死する者が多く、木葉を摘み、木の実を拾い、曼珠沙華の根を掘り食いわずかに命を繋ぐ有様でした。徳島藩は米倉を開いて窮民を賑救し、名東郡では 8 月から 10 月に至る 50 日間、新居村（現徳島市）不動前並びに高崎村（現徳島市）の鮎喰川河原に小屋がけをして焚き出し施米をしました。施行を受けた人数は延べ 78,620 人と記録されており、徳島城下と周辺村々はもとより、西は美馬・三好郡、南は那賀・海部郡からも来ました。徳島市不動本町の密厳寺には、天保の飢饉で亡くなった 144 人の霊を弔うために供養塔が建てられています。＜徳島県史編さん委員会編「徳島県史第 4 巻」1965 年、徳島市史編さん室編「徳島市史第六巻」2020 年＞

密厳寺の天保飢饉供養常夜灯

密厳寺の天保飢饉供養塔

Vol. 117（2022 年 3 月）津波を忘れない①

津波を忘れない

2011 年の東日本大震災では津波の怖さを改めて思い知らされました。1946 年の昭和南海地震で津波被害を受けた四国では、津波を忘れないようにとの思いを込めて石碑が各地に建立されています。徳島県牟岐町と高知県黒潮町の例をご紹介します。

■牟岐町南海震災記念碑（徳島県牟岐町）

昭和 21 年（1946）12 月 21 日午前 4 時 19 分に発生した南海道地震及びそれに伴う津波により、牟岐町は 92 年前の安政の津波以来の災禍をこうむりました。被害は、死者 52 人、重軽傷者 38 人、行方不明者 1 人、住家の流失 109 戸、倒壊 265 戸、半壊 162 戸、浸水 778 戸、船舶の流失 91 隻、田畑の流失 40 町、浸水 46 町、道路の決壊 10 箇所、橋梁の流失 6 箇所などに及び、敗戦の痛手から立ち直ろうとしていた町民を、さらに打ちのめすことになりました。昭和 53 年に牟岐小学校横に牟岐町南海震災記念碑が建立されました。碑文には、瞬時にして荒廃の町と化したその痛ましい記録を刻み、犠牲者の霊を慰めるとともに後世への教訓とすると記されています。＜牟岐町史編集委員会編「牟岐町史」1976 年、牟岐町教育委員会編「南海道地震津波の記録　海が吠えた日」1996 年など＞

牟岐町南海震災記念碑

牟岐駅
杉谷
山田
中村
大谷
牟岐川
牟岐浦
南牟谷
大岐田
中山
馬地
牟岐町南海震災記念碑
牟岐町
牟岐漁港
（地理院地図に加筆）

Vol. 117（2022 年 3 月）津波を忘れない②

■加茂神社の南海大地震の碑（高知県黒潮町）

昭和 21 年（1946）12 月 21 日午前 4 時 19 分、大地震が起こり、津波が発生しました。92 年前の安政地震の恐怖を語り継いできた「大潮まつり」の行事が昭和初年に途絶えてから約 20 年が過ぎていました。旧大方町（現黒潮町）の被害は、死者 22 人、重傷者 11 人、住家の全壊 258 戸、半壊 347 戸、田の埋没 8 町歩、畑の埋没 5 町歩、護岸崩壊 35 箇所、堤塘崩壊 22 箇所、橋梁決壊 3 箇所、道路破損 15 箇所、砂防破損 3 箇所、津波による住家流失 3 戸、浸水 44 戸、津波による船舶流失 5 隻、破損 20 隻、船具漁具多数破損などに及びました。20 年後の昭和 41 年に入野海岸の加茂神社に南海大地震の碑が建立されました。碑文には「天災は忘れた頃にやって来る」と刻まれています。＜大方町史編集委員会編「大方町史」1963 年、大方町史改訂編纂委員会編「大方町史」1994 年など＞

加茂神社の南海大地震の碑

四国災害アーカイブスの概要

■利用の方法

四国災害アーカイブスは､インターネットを通じて利用していただきます。

四国災害アーカイブス http://www.shikoku-saigai.com

■収録されている災害データ件数

四国災害アーカイブスに収録している災害データ件数は、29,657 件です（令和 4 年 4 月現在)。

■収録されている災害情報の内容

災害の種類	1)地震・津波 2)土砂災害 3)渇水 4)風水害 5)高潮 6)雪害 7)火山災害 8)大規模な火災 9)その他
災害情報の概要	災害の状況、被害の様子、地域の人々の対応、被害軽減の取り組み、等
情報収集の範囲	四国で被害が出た災害で、時代が特定できるもの
情報収集対象物	上記の情報を記載している印刷物または電子データ、および現地調査情報 ・市町村史、郷土史 ・事業誌 ・災害記録、災害体験集 ・写真集 ・学術論文、雑誌論文 ・その他文献等
関連情報	・災害現場、石碑、痕跡等の位置情報及び写真 ・原資料ＰＤＦ（著作権者から許諾が得られた場合）

■四国災害アーカイブスでお伝えしたいこと

四国災害アーカイブスで、皆さまに以下の３つのことをお伝えできればと考えています。

①身近な所に災害の歴史があります

平成 23 年に東日本大震災が発生し、地震・津波への関心が高まっていますが、四国では過去に地震・津波だけではなく、風水害、土砂災害、高潮、渇水などさまざまな災害がたびたび起こってきました。皆さんの身近な所にも災害の歴史があります。

②人々が災害に立ち向かってきた歴史があります

災害に対して、人々はただ手をこまねいていただけではありません。できるだけ災害が起こらないように、またできるだけ被害が大きくならないように、その時々に応じた取り組みが行われてきました。先人の努力や工夫の積み重ねの上に、今日の四国があります。

③災害にまつわる石碑や痕跡などが各地にあります

各地に災害にまつわる石碑や痕跡などがあります。石碑には子孫に災害の教訓を伝えたいという先人の強い思いが込められています。皆さんが災害にまつわる石碑や痕跡を訪ね、改めて災害や地域のことを考えるきっかけにしていただけるよう、できるだけ現場の地図や写真を提供しています。

メールマガジン配信中

四国災害アーカイブスのメールマガジンを毎月発信しています。メールマガジンの受信を希望される方は下記にメールをお送りください。
E-mail: info@shikoku-saigai.com

アーカイブスあらかると
Vol.106～117（2021年4月～2022年3月）

四国災害アーカイブス事務局
（一般社団法人　四国クリエイト協会）
〒760-0066　香川県高松市福岡町3-11-22
電話 087-822-1676　FAX 087-823-8569
http://www.shikoku-saigai.com

2022.4